

ハンセン病市民学会

[集会報告](#) > 設立総会参加者の声 > 大畑 靖夫さん

設立総会参加者の声

[差別の連鎖をたちきるために](#) 大畑 靖夫（熊本市）

ハンセン病療養所菊池恵楓園でひらかれた「ハンセン病市民学会」に参加しました。はっきりとわかるハンセン病の後遺症をもっている元患者をはじめ、全国から500人を超える参加者がありました。これは、ハンセン病が過去の出来事ではなく、現在もなお大変な差別のなかでもがき苦しんでいることのあらわれでもありました。

2001年の熊本地裁での国の隔離政策の誤りを認めた判決が確定して、一定の補償と救済策が講じられました。しかし、「温泉宿泊拒否事件」等、元患者をとりまく偏見や差別はいまだに根深く残っていることも知りました。

「人間の顔をしていないので人間として言う権利は無い」とまで中傷する人がいる、という会場発言に胸がつまりました。

療養所の中にある納骨堂には、引き取り手がなく、死んでも故郷へ帰れない人の遺骨が二万数千体も眠っています。そして、いまだにハンセン病を明らかにすることが出来ずに長い間十分な治療もうけられない人もいます。

今回の集会に参加して肝心なことを学びました。ハンセン病に対する救済は、かわいそうだから「施し」をすることではなく、たまたまハンセン病に罹ったことで奪われた人権をみんなでとりもどすという、あたりまえの考え方に立つことでした。また、このことがハンセン病に限らず、すべての差別の連鎖を断ち切る力となると思いました。

帰り際、施設の中で盆栽に水をまいている入所者の一見平穏そうな姿に、これまでの計り知れない労苦が浮かんできました。ハンセン病だけでなく、障害を持つ人や高齢者など弱い人たちの「人間の尊厳」をどうまもっていくのかに通じる素晴らしい「市民学会」の発足でした。

※熊本日日新聞（2005年5月19日付）「読者のひろば」に掲載されたものです
大畑さんから原稿をいただきました。

市民学会について

- [入会のご案内](#)
- [呼びかけ人等](#)
- [規約・委員](#)
- [活動方針・報告](#)
- [年報](#)
- [集会報告](#)
- [過去の記事](#)

部会

- [宗教部会](#)
- [家族部会](#)
- [青年・学生部会](#)
- [教育部会](#)
- [図書資料部会](#)

その他

- [広場](#)
- [発信塔](#)
- [ソロクト・楽生院訴訟](#)
- [胎児標本問題](#)

